

# ひろはの遺跡

第109号

## 石造物の3次元レーザー計測を実施

(世羅町 大柳遺跡)



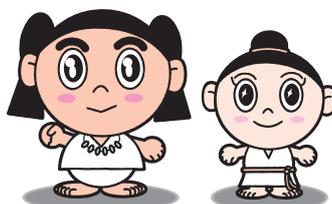
石造物にレーザー光線を照射して計測中

計測された石仏



発掘調査中の石造物

文化財の調査も  
科学的になったね!



ひろちゃん

やいちゃん



# 平成24年度「ひろしまの遺跡を語る」

中国山地の旧石器文化を考える—移動生活と運ばれたモノ—を開催しました。

- 日 時 平成24年1月19日(土)10時～15時30分
- 会 場 広島県民文化センター 多目的ホール
- 内 容 事例報告Ⅰ 「和知白鳥遺跡(三次市和知町)の発掘調査」  
当室 山田繁樹さん
- 事例報告Ⅱ 「只野原3号遺跡(庄原市高野町)の発掘調査」  
当室 青山透さん
- 研究発表 「備北地域の旧石器時代遺跡」  
当室 辻満久さん
- 基調講演Ⅰ 「旧石器時代の環境と暮らし」  
広島大学総合博物館 藤野次史さん
- 基調講演Ⅱ 「山陰から中国山地の旧石器文化」  
島根県古代文化センター 丹羽野裕さん
- シンポジウム 「中国山地の旧石器文化を考える」
- コーディネーター 広島大学総合博物館 藤野次史さん
- パネラー 丹羽野裕さん, 山田繁樹さん, 青山透さん, 辻満久さん



基調講演Ⅰの藤野次史さん



基調講演Ⅱの丹羽野裕さん

近年、広島県、広島県和知白鳥遺跡、只野原3号遺跡、島根県原田遺跡など中国山地で旧石器時代の遺跡の発掘調査が相次いでいます。こうした遺跡の成果を通して、旧石器時代研究が専門の広島大学 藤野次史教授に当時の生活環境や暮らしについて講演をいただくとともに、各遺跡から出土している黒曜石・安山岩・玉髓など石器石材の移動ルートについて島根県古代文化センター 丹羽野裕センター長に考証していただきました。その後、藤野次史さんをコーディネーターにシンポジウムを行い、議論を深め、約170名の参加者に聴講いただきました。



シンポジウム  
藤野さんのリードにより活発な議論が展開されました。



会場には、多くの考古学ファンが来場され、熱心に各事例報告や講演を聴講されました。



会場には、只野原遺跡を始め下本谷遺跡、和知白鳥遺跡などの石器が展示され、多くの方々が熱心に見学されました。



只野原3号遺跡出土  
黒曜石製ナイフ形石器

# 平成24年度 中国横断自動車道尾道松江線建設事業に係る 埋蔵文化財発掘調査報告会Ⅵ —ハイライト②・中世の城跡と墳墓— を開催しました。

平成14年度から、中国横断自動車道松江線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査を行っています。これまで、多くの古墳をはじめ、旧石器から江戸時代の多彩な遺構・遺物が見つかり、この地域の歴史像の解明に重要な手がかりを提供しています。

今回は、これまで行った発掘調査の中から、特に注目される中世の城跡や墳墓4箇所について、その成果を調査担当者がスライドを使って報告しました。

日時	平成25年3月2日(土)13時～15時20分
会場	広島県立歴史民俗資料館 研修室
内容	(報告した遺跡) ・家ノ城跡(尾道市木ノ庄町) 唐口勉三 ・牛の皮城跡(尾道市御調町) 山田繁樹 ・大柳遺跡(世羅郡世羅町) 河村靖宏 ・三隅山遺跡(三次市三良坂町) 曾根 猛 ・出土遺物やパネル写真の展示

尾道市北部に所在する家ノ城跡は丘陵上の最高部に1郭を配し、南側に延びる尾根線上に郭群を造っていました。1郭では建物跡5棟をはじめ、土坑37基、鍛冶炉1基が確認されるとともに、土師質土器、輸入磁器、懸仏、兜片など多彩な遺物が出土しました。建武3年(1336)に杉原信平・為平兄弟は戦功により木梨庄の地頭職を得、本拠鷲尾山城に信平が、家ノ城には為平が拠ったと伝えられています



牛の皮城跡は、尾道市の北部に所在し、北方眼下に西から東に流れる御調川があります。城跡は標高約230m付近の南郭と北側に延びる尾根線上にある北郭群が造られていました。調査は北郭群を調査し、5段の郭群と畝状堅堀群14条を検出しました。本城は16世紀前半に森光景近が拠り、文禄年間(1592～1596)に廃城になったと伝えられています



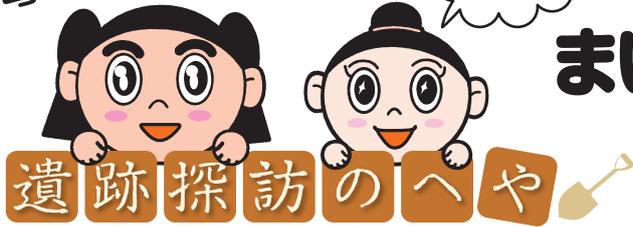
大柳遺跡は甲山盆地の東端に所在し、南向き丘陵斜面を3段に削平して石積基壇を造っています。基壇上及びその周辺からは五輪塔や半肉彫の地藏菩薩像、土師質土器の皿、瓦、古銭などが検出されました。出土遺物から墓地の築造時期は室町時代と考えられます



三隅山遺跡は三良坂市街地から約2kmにある丘陵斜面に所在しています。古墓28基、溝9条、掘立柱建物1棟、建物跡土坑4基の他に、水溜と考えられる大型土坑2基などが検出されました。遺跡は、遺跡周辺の地名などから、中世寺院に伴う墓地と想定されます。



毎週更新!!



# リニューアルした まいぶんホームページ

<http://www.harc.or.jp/>



平成11(1999)年8月9日の埋蔵文化財調査室の前進(財)広島県埋蔵文化財調査センターによって開設されたホームページ「遺跡探訪のへや」が、今年度本格リニューアルして、情報満載です。

これまでの「行事のご案内」や「発掘ニュース」に加えて、情報誌「ひろしまの遺跡の」最新号の電子版、新着情報「Wha's NEW!」などのほか。刊行図書の電子ブックも公開中。ぜひクリックしてみてください。



懐かしい開設当初(1999.8.9)のHP(トップ)



マスコットキャラの自己紹介もみてね!

本格リニューアル!!のHP(トップ)

## シニア?にうれしい!こんな仕掛けもありますよ!!

「発掘調査ニュース」掲載写真は拡大して見る事ができます。

お好みの文字サイズに拡大縮小する事ができます。

RSS配信しています。

トッページ「What's NEW!」の右にある マークをクリックしてRSSリーダーまたはRSS対応ブラウザに登録すると、新着情報をチェックすることができます。



あいうえお

標準

文字の大きさ

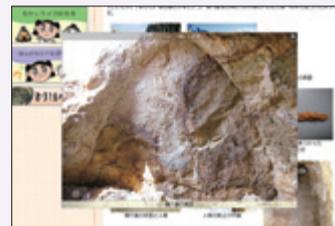
拡大

縮小

標準

あいうえお

拡大を2回押したサイズ



見やすくなったね!



広島県教育事業団埋蔵文化財調査室開設10周年記念

## 埋蔵文化財調査室の平成25年度の新企画のご案内

# 発掘現場体験ツアー (行く・見る・ちょっと掘るの考古学)

—瀬戸内水軍城を掘る—のご案内—

日ごろまじかに見ることの難しい発掘現場の見学や発掘体験をとおして、埋蔵文化財を身近に感じていただけるよう大崎上島の水軍城の発掘体験ツアーを開催します。

- 発掘遺跡：葛城跡(広島県大崎上島町沖浦)
- 期 日：6月26日(㊤)～6月27日(㊤)
- 集合場所：広島駅新幹線口
- 交通機関：貸切中型バス&フェリー
- 行 程：広島→大崎下島→大崎上島(葛城発掘体験)→ホテル清風館(泊)→映画「東京家族」の舞台・木江の町並み散策→広島

●参加対象：一般(15歳以上)

●定 員：20名

●申込締切：5月24日(金)まで

●申 込 先：埋蔵文化財調査室

●参加費：25,000円

(広島からの交通費、清風館1泊2食、2日間の昼食代、保険料等を含む)

詳細は4月中旬にチラシ・ホームページ等でお知らせします。



大崎上島の水軍城・葛城跡



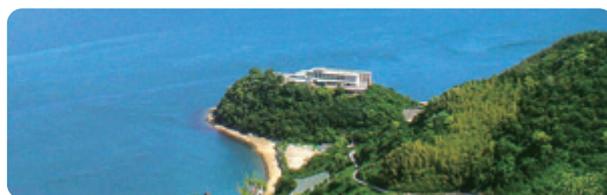
木江の町並み



ホテルから瀬戸内海



大崎上島へはどう行くの?



水軍城のようなホテル清風館に宿泊!

## ひろしま考古学講座Ⅱ

—人々の交流と画期—

県内遺跡の調査研究の成果を、隣県の情報と比較して考える考古学講座を広島グリーンアリーナ(県立総合体育館)で開催します。

回	日時 (時間は13:30～15:30)	講座名
1	10月18日(日)	最古の石器からみた交流(仮称)
2	10月27日(日)	古代の吉備と安芸・備後(仮称)
3	11月10日(日)	埴輪からみた交流(仮称)
4	11月24日(日)	近世の岩国城と広島城(仮称)
5	12月8日(日)	陶磁器から見た交流(仮称)
6	12月22日(日)	日本海と瀬戸内の漁具(仮称)

詳細は、6月中旬にチラシ・ホームページ等でお知らせします。

## 南観音考古学教室Ⅰ

—見る・聞く・やってみる考古学—

南観音公民館と共催で、身近な遺跡の探訪や出土品を見ながらその技と心を体験する考古学教室を次のとおり開催します。

回	日時	教室名
1	7月21日(日) 10:00～12:00	こねこね教室 —土器づくり—
2	8月20日(火) 10:00～12:00	マル秘!お仕事拝見・体験 —県埋蔵文化財調査室の特別公開—
3	8月25日(日) 10:00～12:00	うまうま教室 —古代のごはん炊き—
4	9月29日(日) 10:00～12:00	てくてく教室 —西区の遺跡探検—

会場は南観音公民館と埋蔵文化財調査室です。詳細は4月中旬にチラシ・ホームページ等でお知らせします。

# 考古学 アラカルト 41

## 円筒埴輪のはじまり

平成19(2007)年に中国横断自動車道尾道松江線建設事業に伴って発掘調査を行った三次市・宮の本第24号古墳は直径30m、高さ4.5mの大型の円墳で、92本の円筒埴輪が墳丘の裾を圍繞(いにょう)していました。これらの埴輪は4世紀末頃(埴輪編年Ⅱ-4期)のものです。

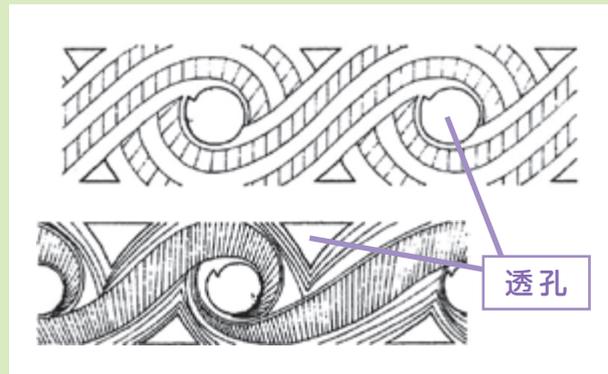
広島県内の古墳で埴輪列がよく残っているのは東広島市・三ツ城第1号古墳くらいで、県北部では4世紀代の神石高原町・辰の口古墳や安芸高田市・甲立古墳で宮の本第24号古墳よりも古い時期の円筒埴輪がみつっていますが、埴輪列としてのまとまりについてはよく分かりません。宮の本第24号古墳の円筒埴輪列は、現時点では広島県北部で最古のヤマト政権の埴輪祭式に則った定型的なものだといえます。

「埴輪」とは、埴(はに)、つまり粘土で作った造形物のことで、今から1,300~1,600年前に造られた古墳に盛んに立てられました。埴輪には人物や動物、



家、武器など様々なもののかたどった形象埴輪と筒形の円筒埴輪とがあります。最初に円筒埴輪が登場し、100年ほど遅れて形象埴輪が立てられるようになります。円筒埴輪には、一般的な円筒形の普通円筒埴輪のほかに、口縁が2段に大きく開く朝顔形円筒埴輪があります。普通円筒埴輪は底部から口縁にかけていくらか広がるもので、大きさは口径20~40cm、高さ60~80cmほどです。

この円筒埴輪にはいろいろな特徴がみられます。円筒の器表面には断面方~台形の突帯=箍(たが)が等間隔に2~8条貼り付けられています。突帯と突帯の間の段には一段おきに対向する位置に2個1対の透孔(透かし)が穿(うが)たれています。この透孔(すかしあな)はふつう円形をしています。最初の頃は、□、△、▽や半円形、巴形など多種多様な形のものがあ、これらが一段に3~4個配されていました。



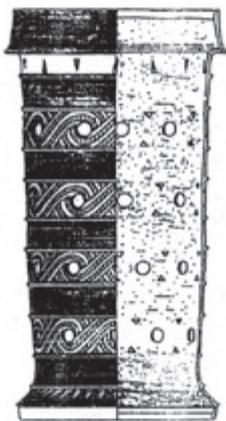
弧帯文(三次市・矢谷墳丘墓の特殊器台)

### 1 器台

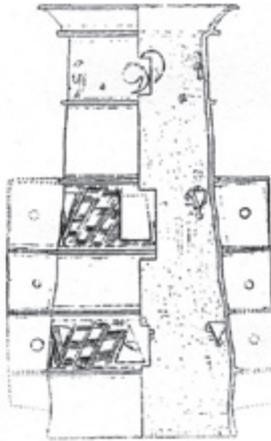


- 1 岡山・上東
- 2 広島・矢谷
- 3 奈良・東殿塚
- 4 奈良・マエ塚
- 5 奈良・ナガレ山

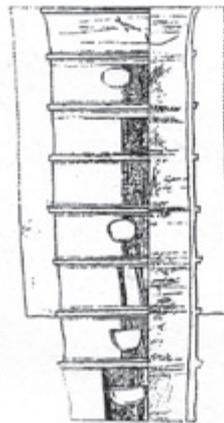
### 2 特殊器台



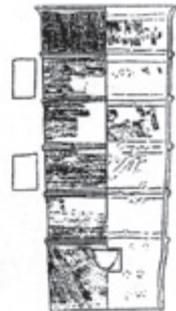
### 3 円筒埴輪



### 4 円筒埴輪



### 5 円筒埴輪



器台・特殊器台から円筒埴輪へ(1:20)



この円筒埴輪は弥生時代のおわり頃に今の岡山県南部を中心とする吉備地域で使われていた特殊器台を直接の祖形とします。特殊器台は弥生時代中ごろに集落でおこなわれる神に収穫を感謝する儀式で用いられた供献のための器台が大型化・装飾化したもので、特定の首長を葬った墳丘墓での葬送儀礼に使われた特別な土器です。この特殊器台の形態や文様は時代とともに変化し、宮山型の段階になると吉備地域から離れて、遠く今の奈良県の大和地域を中心に分布するようになります。そして、この大和や河内など当時の政権の中核である畿内地方で文様の簡素化や形態の縮小化が行われ、3世紀後葉頃に最初の円筒埴輪が出現期の前方後円墳に樹立されます。最初に円筒埴輪が立てられた古墳は奈良県の中山大塚古墳や同じく西殿塚古墳、東殿塚古墳などで、やがて4世紀初頭頃に築造されたメスリ山古墳で安定した製作体制のもとで作られた埴輪が樹立されます。卑弥呼の墓だと言われている箸墓古墳は3世紀半ば頃に築造された最古の古墳ですが、まだ円筒埴輪は立てられていません。この最初期(3世紀半ば～4世紀半ば頃・埴輪編年I期)の円筒埴輪は形態や文様など個体差が大きく、まだ円筒埴輪としての形式が整っていません。円筒埴輪の形や文様などがある程度統一されて落ち着くのは、4世紀半ばのII期になってからです。

円筒埴輪はその祖形である器台や特殊器台の形態や文様などの見た目が変化してきてただけのものではありません。そこには器台や特殊器台を用いて儀礼を行ってきた当時の人々の様々な思いが込められており、それらが円筒埴輪の形や文様に抽象

化・単純化されて反映されています。それらが最も分かるのは円筒埴輪の段に穿たれている円形の透孔です。特殊器台の器表面には渦巻のような弧帯文(こたいもん)が特徴的にみられます。円筒埴輪の透孔は、この弧帯文の線刻による文様部分が消え、その「交点」や「結節点」としての孔(三角形・巴形・レンズ形など)だけが残った、いわば弧帯文のなれの果てです。この弧帯文は横方向に無限に連続する文様で、民俗学では霊的な力や存在を縛り付けるという呪術的な意味が考えられています。ですから、弧帯文の最終形態といえる円筒埴輪の透孔は、弧帯文と同じ意味合いをもっていると理解されます。透孔、さらには透孔をもつ円筒埴輪は古墳の墳丘に樹立されることで、古墳に眠る首長に寄りつこうとする悪霊を避けたりその力を弱体化する一方で、首長の霊が古墳の外に出るのを封じる役割もあったと考えられます。また、円筒埴輪の祖形である器台や特殊器台は元々お供え物を載せるものですから、円筒埴輪にも、壺+器台が一体化した朝顔形の円筒埴輪に象徴されるように、首長へお供え物を供献するというもうひとつの役割をもたされています。

ところで、埴輪の起源については、『日本書紀』垂仁紀に面白い話があります。それは、古墳築造に際して殉死させられる家臣や動物たちの代わりに粘土で作った模造品を古墳に立て並べたのが埴輪のはじまりであるということです。しかし、この話は、人物埴輪や馬形埴輪が出現する5世紀代の伝承がもとになっていて、実際にはすでに述べたように、供献のための器台や特殊器台がもとになっているのです。(梅本健治)



宮の本第24号古墳の墳丘(東から)



宮の本第24号古墳の円筒埴輪



## お知らせ

# 平成24年度の発掘調査報告書を刊行しました。

ご希望の方は調査室へお問い合わせください。

	書名	市町名	概要	頒価
1	只野原1号遺跡 只野原2号遺跡 只野原3号遺跡	庄原市	旧石器時代ではATを挟んで上下で文化層を確認。縄文時代の草創期から早期の遺構・遺物の他、中国地方では珍しい煙道付炉穴を調査。	2,200円
2	番久遺跡 原畑遺跡	庄原市	番久遺跡は古墳時代前～中期、原畑遺跡は弥生時代後期と古墳時代前～中期の集落遺跡。多量の土師器の他、剣形石製品が出土。	2,100円
3	向泉川平1号遺跡 向泉川平2号遺跡	庄原市	向泉川平1号遺跡では旧石器時代の石器や縄文時代前期の土器・石器が出土。2号遺跡では弥生時代・古墳時代の堅穴住居跡を調査。	1,700円
4	石谷2号遺跡 石谷3号遺跡	庄原市	石谷2号遺跡では縄文時代の陥穴42基を調査。石谷3号遺跡は古墳時代後期の堅穴住居跡2軒を調査。	1,000円
5	馬ヶ段遺跡 皇塩遺跡	庄原市	馬ヶ段遺跡では、古墳時代後期～奈良時代の集落跡及び横穴墓などを調査。皇塩遺跡では、古墳時代後期の横口付炭窯跡を調査。	1,100円
6	三重1号遺跡	三次市	古墳時代中期を中心とした集落遺跡。L字形カマドや鍛冶炉のある堅穴住居跡を確認し、剣形石製品などの滑石製品が出土。	1,600円
7	宮の本第20～26・31・32号古墳	三次市	直径30mの円墳である第24号古墳は埴輪列・葺石が残る4世紀末の古墳。他に4世紀末～7世紀代の横穴式石室等古墳8基を調査。	3,600円
8	廿日市町屋跡	廿日市市	近世の町屋跡。中世末～近世にいたる遺構面を4面確認し、礎石建物跡や多数の鍛冶炉跡を検出。大量の国産・輸入陶磁器が出土。	1,600円
9	御領遺跡(第2次調査) 御領遺跡(第3次調査)	福山市	弥生時代中期から古墳時代の集落跡。堅穴住居35軒、掘立柱建物15棟、溝15条、井戸1基、縄文時代の土坑を調査。	1,500円
10	常納原遺跡	庄原市	縄文時代早期・弥生時代終末期～古墳時代後期の集落跡。縄文時代早期の押型文土器の他、古墳時代後期の鉄鉾石や鍛錬鍛冶滓が出土。	1,000円
11	岡野原遺跡 小迫遺跡	竹原市	小迫遺跡は中世の作業場。岡野原遺跡は6世紀前半の可能性のあるカマドを有する住居跡の他、8世紀代の住居跡から製塩土器が出土。	1,000円

## 平成25年度の発掘調査事業

- ①国道313号線改廃事業に伴う福山市神辺町御領遺跡〔(第6次)弥生時代～古墳時代・集落跡〕の調査を4～6月に、御領遺跡第7次調査は7～12月に予定しています。
- ②県道改廃事業に伴う葛城跡(中世・水軍城)の調査は6～7月を予定しています。
- ③県道改廃事業に伴う福原2号・3号遺跡・狐川遺跡(中世・集落跡)の調査を4～12月に予定しています。

(財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報

### ひろしまの遺跡 第109号

発行日 平成25(2013)年3月29日  
 編集 (財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室  
 〒733-0036 広島市西区観音新町四丁目8番49号  
 TEL(082)295-5751  
 ホームページ <http://www.harc.or.jp>  
 E-mail [maibun@harc.or.jp](mailto:maibun@harc.or.jp)  
 発行 (財)広島県教育事業団  
 印刷 (株)インパルスコーポレーション